

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN

高
山
房
三

13
1367
8 止



1967
34



夜雪巻之三

麻那伊紀翁著

名の去れをもぢや。息孫の^{ミキス}信羅^{ミシロ}より由乎の郷に住てた
まひと山と^{ミヤマ}接^{シテ}て名けり。

鎌倉モト攝座也。^{カタチ}和訓付タル文字。古今差異^{シヨウ}ニ示す。

クラト云字。倉碑藏座。鞍^{ツノ}猿^{サル}同シヨウナリ。上四
字心通ヘリ。カニクラム^ムキトヨロヲカニユルトイフミセナ
シハ構座ノ心ナリ。亦カニクラカニ子ハ異ラ^シタル山也。謹
ニアラス。昇ト鍊ト訓同ナレハ誤^ミ也。理^リ複多シ。和訓^{カタ}
カノ共ニ同ヨミナリ。鍊ノ訓多シアリ。日本古事記傳^{カタタヒ}也。益^{アシ}。

1

但馬

夜雪卷之三

齊都尹紀角牴

友の未だとづや。息の^{イキス}鳴^{ミツ}離^{カキ}うり。由^{サト}升^{サト}の御^マ後^モ移^シた
まへ。『^{ヨーク}』と^{ヨーク}離^シて^{シテ}ゆく。

クラト云字。倉庫藏座鞍掠同シヨミナリ。上四
字心通ヘリ。カニクラハ井トユロヲカニユルトイフ字義十
レハ構座ノ心ナリ。亦カニクラカモ子ハ。尋ヲ埋メタル山也。鎌
ニハアラス。尋ト鎌ト訓同ケレハ謬レリ。尋ノ類多シ和訓。カナヘ
カニ共ニ同ヨミナリ。鎌ノ訓ツルナベコレモツルカナヘ也。釜ノ訓

カ一^ト是モ尋^シナキモノ也。只ナベトモイフ。ツルカナヘト云モノ
ニハ鶴^{ツル}亀^{カメ}ノ形ヲ鑄^トタリ。雀^ヲツルトヨミ。亀^ヲカメトイフ。尋^シ
狀^{カタチ}ニアレハ。上ナルヲツルトイヒ。下ナルヲカメトイフ。ツルトカナ
ヘトノ目針ヲカナメトイヨリ。要ノ字訓ニカナメトイヨム。カナヘノ
目也。カナメノモトニ靈^{レイキ}龜^{カタチ}ノ形アルニヘ。カナメノ中略カメ也。
カナヘノ手ヲ釣^{ツル}ト云。ツルトヨム。雀^ヲツルトヨム。蔓^ホノテモ。手ナカキ草ナレハ。ツル
ケタレハ。雀^ヲツルトヨム。蔓^ホノテモ。手ナカキ草ナレハ。ツル
トイフト云。○構座ノ里ニ鶴^{ツル}亀^{ガメ}谷有事。尋^シノ靈^{レイキ}象^ヲ
現^スル事度^ミナリ。此傳記。水戸黃門公ノ鎌倉志ニモ
ラセリ

揚名のふありきも人の子孫頌^{リヤウ}一^ト後。男山と効^ト清^ト。深^キ
義家^{ヤマ}やのまくをと清^トト^{クサメ}。鶴^{ツル}のまゆ^{ツル}やとあらそ^ス也^モ。
至^リ富^ヒ方^カ小^シも^シ。和^シひき^シやと歩^トり。清^ト泉^{カニラ}の旅。白門^ハ
法室^ハ。代^シ賤^シはまろ^シ。ひそつ^シすく^シあき^ハせの中^ハつ^アとゆ^シ一
夕^を。さあふ^シとあくと。文學上^人。伴^シのふあらやうと
よ。うちひそ^シも若^かづきのう^シ。御^朝とそ^ののう^シ。
八臘^をあひ^シ月^ヲ締^{シテ}。づちあらそ^シと^シ。二日^ニそ^シ
うれし。行^なの用^を。づく。ひそ^シと^シおわらと。旅^やあ^ハく。
法室^のほ^シた^シう^シを。ひそ^シと^シほ^シと^シう^シ。かく

あきよびうあうあよりやうく院宣とくとく後をも。とまきりへ
前本吉清信と。源武王とかせきとおきへ。とく源三位
將政へひき。奉起さむ一とれ。もくみえれを旨あると
の事。あくべつ。づもあすと。そゆてろーをき。行進と不
思議のほあきへとく。猪羽やつととけ。ぬの野とく
えんとくいくをみをほく。神壇よやまめらきされ。とまき
とあ。始らわとひやうき。儀式きふ伝あきつらや。あ
八條へひき威勢。やくろくよかうれ。闇のやくとあはく猪羽
と。ゑよ歎とく唱く。よ氏とくとくあくひ供するあきる。言
うの玉民あつう。天の詔とくのちくわく。日の幸れ總進

補足となく改ひとまくと縫會りとあそ禮く。ハモ氏四黨
私の役と始くと。とれとくと後のれとくとくと。記録跡りの
古江彦え。中本吉信。安衆よひた多助。佐吉小吉。伏見官者
あり。一属の源氏とれと清く。猪式傳ウキつ。あくきとも。治義
軍とくとく。佐吉ひとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
合戰の後。安房上総武名相撲の勝く。あくとくとくとくと
こくらやひとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
祐と佛と。おとづきとくとくとくとくとくとくとくとくと
やく。あくねまくとくとくとくとくとくとくとくとくと
ゆの紫。將軍のくよあくと。たくひ氣拂を義母の後室。新田友

者義重の息女。姫君あるが居て坐す。まことにあひて先
あきよ。まきとを負ひやく。ふじとあくすうにあらけ
れ。又義重小きじゆ。又義の弟との妻と体を度綱
とあけやつし。と御内助つづく。牧綱多とくさひ。度綱
をひよる流でさき。又嘉永二年。諸人のと第よほく。忠功の
度量と織と。門に年清お家有と教一。度内助將軍のう
かみふうりき。討を後内光院と隸り。かくよりぬ
ゆ。宮もろも見付く。お多のま紙とゆ。小鷹原景時に
の様のまく。飛鳥さんとせうふ薦一。かくふゆ
傳なり。毛の相羽の始をあくと。後とりよへり。始く

経のあくまく。あくは蔓の中。うつねふきと。たまといゆう
て。人始よはちもく。だまおうまきへゆうと。やせ
をゆあくまく。中はく。せとうやましきふきぬりあたう
て。かくまく。かくやせうまく。あくは内ぐ。かくゆまく
おくうちあくまく。始ねあくまく。せのまく。かく
とあくまく。かくのまく。かくのまく。かくのまく。かく
お孫ぬく。お孫ぬく。かくのまく。かくのまく。かく
をあくまく。かくのまく。かくのまく。かくのまく。かく
のまく。かくのまく。かくのまく。かくのまく。かく
可不可。けうちあく。一筋あると。かくゆく。かくふく。かく

をりを。あらぐく移つたりふよ。」生のうね。トモ。アリサ
持もふるつよ。持もももみのとおトあふれなとち
トモトムあり。もとナヨラモシキ。わ形あり。禁討の後ナロ
ト。傳ウジ。タマリ。ひ強き威安よみ。大政安すのノハ
傳。タマリ。ヒミツモ羽の威。ナヨハヤシス。ナリトの
篠倉あさく。記緑助と。シキ。持の式法と。モノラ
あすよあきら。將軍家。シヨウ。ツカサ。カチナ
の權威は。シヨウ。モモトリ。の改。シヨウ。ツカサ
トモアラ。鐵筋。ウタキ。北。神祇安の。シヨウ。カ
ももう。よ。河。流。ゆき。あま。ひふ。トモ。トモ。アリサ

蓮の門をさうらと。其を自密とす。百家の佐。ゆゑもぐく
そくせ先まつ總内と洗ふ。あまきは。ほんあひもむほ
ほく起きて。下の山あり。峰は僅えのみをとひや。まほ
ふと二の舞よく。深氏やまく平家さんよあく。後白河院のま
よへ相手へたのまよ。私からゆふるをひく。まわす
あましをとく。とくとくやまかく。やくゆくと。佐とひ
感とひかね又かね母。まの子をひだるのたびふて。算へ
捨家を放よけり。てゆゆくこまくわく。やまとあり。放され
よ。ちのひよく。強よもく。まくわくあくこと。やまとひと
ある。あじまのまよ。まくわくあくたる。

あそやうひあり。まよひを瞽叟^{ギョウスク}とやへもひく。ほくふとゆう。
玄中^{ワウキン}賊の子孫^{ソク}。金の壁^{ケンシ}をあう。梶原黨^{トウペイ}の氏裔^{エイ}。智將^{チヤウ}也。城
の元勋^{ハシレイユウ}功あらぬ^{ハシ}。後のみかく^{ハシ}にほく^{ハシ}。もうくひくれ
あ。あらも。縦糸數^{ヒナミ}の寬^{ヒヤウ}に^{ヒヤウ}が^{ハシ}。十三^{トトロ}法^{ハシ}義^{シヤウ}。年^{ヒヤウ}まつま。
住^{ヒヤウ}の日^{ヒヤウ}は^{ハシ}まし^{ハシ}あら。さ^{ハシ}ぐ^{ハシ}い^{ハシ}ま^{ハシ}。ま^{ハシ}う
と^{ハシ}。十^{トトロ}のあやゆ^{ハシ}み^{ハシ}。へ。情^{モラハシ}秋^{モモカハシ}りのよ^{ハシ}き^{ハシ}。秋^{モモカハシ}のま^{ハシ}り
ゆ^{ハシ}き^{ハシ}。引^{ハシ}きの縁^{ハシ}み^{ハシ}。持^{ハシ}く。あやゆ^{ハシ}ま^{ハシ}。ま^{ハシ}う。ま^{ハシ}な
ミ^{ハシ}年^{ヒヤウ}月^{ヒツ}の。當^{ハシ}おの。屏^{カイラフ}あそ^{ハシ}。ううめ^{ハシ}と^{ハシ}あふ^{ハシ}と^{ハシ}か^{ハシ}れ^{ハシ}。ば^{ハシ}
ううあふ^{ハシ}く。うう先^{ハシ}縫^{ハシ}あう。人^{ハシ}の。あうと^{ハシ}の。ううあ^{ハシ}く。あ^{ハシ}く
あ^{ハシ}くも。何^{ハシ}うん。始^{ハシ}あう。終^{ハシ}あ^{ハシ}せよ。やうと^{ハシ}。たよ^{ハシ}極^{ハシ}

卷三
六
春水堂藏
きふく。極めて近いのところよだててある。あくびくせ
とゆく。神武の天皇は、^{コノカミ}雄々と、^{ミカド}車の車の事に拘る。
神功皇后。まつらあねもくと、^{セメ}素戔嗚尊。慈母傳より
をさす。推古。聖武へ佛は傳と。み室にて伝教。上まき子
入室と教く。鎌足の臣とあり。まの代より。感し
人あり。またあり。またあり。感する事。多く感し
へやく。多ひふけく。聖教佑加志記。天智天皇ヨリ
まもはみをさうらむ。多く中をゆくとあり。教く中にも
くゆる。多く中をあらうあり。日の午はく。御代のゆき
うちゆく。ありえよく。まくの付とある。じめゆき。

いづの後今ひぬあり。今ひの後いづのをもと。唐
かま。倭賊のみよ侵^ヲまと。ちも助^メめり。まわもてへば。
神の山強^キああく。う^ヲあくわく。神^ミの船^舟あへゆの^ヲ
とあ。きの^ヲとあ^ヲて。まく討^メとあ^ヲあ。あく
くもくとあくもくとあく。八幡^{ハシ}神^ミの御^ミみ旅^ミもく。倭奴^{ワタ}
のちもくとあくもくとあく。浦^{ハタ}津^タの鹿^{カニ}とも
夜^ナの月^月の月^月安^シね。八幡^{ハシ}とぞほんと唱^メ。盜^{ヌス}人のを
ざら。さら教^マあくねくひの月中^ヲう。さくと^ヲとれて。あく
さくと^ヲ。さくと^ヲあくと^ヲ。う^ヲあくと^ヲと。月^月の草^草のを子
聞^ヒえのは。さくと^ヲよ渡^マさく^ヲ。基^{モトヒ}とくさんとく

卷之三

卷之三

七

卷之三

不聖

卷之三

卷之三

まもる。しもととの事へあらへてこそ。わざとあらまほ
んといふ。こせの佛をひともく。ラウティ
ラウティキヤウレニンタナコロラシテ
ちくゆれをきくと申へひとうもあつて。その
く處は、あくとやむじあへ。林はくわあれまくわう壁
のをとくゆまつと。口のをあらわくまよ津くまと。
神のをとくと。今人のをよあねあくと。それをさ
やくあくと。まづふりもく。林傷のゆい。シジ
ヒナミトシナミ
りく。月並年次のもとがたを。すくはくとまくと。日
本記かくづく。づくを。じゆくとく。げあくらぶて。まくと
く。すみあくづく。まくのまくと。がくらうとく。

卷之三

卷之三

九

若水堂雅

せとも。もとよりあらわす。あそよへあらね。だ内
おもてへひづき。まうれあをへ保えよう。そのほどのほら
ひきうちく。改モヨモヨヤヤタハアシラク。擅威のミハ
一。帝ミカド兄エコアキヒコヘ。徳ツバキの先ササシ。子チやちやいふ。血ツバキ
ウス食エく。やまふう。ふと。後ハシモの。先ササシ。子チやちやいふ。血ツバキ
あくまく。ややけく。あくやく。あくあく。
きよれへ。ゆよゑあを。と。やをと。親ヒトと。うやゆへ
と。傳ヒト。よつやく。あやう。あくそ。嗣ヒト。あを。と。うやゆへ
と。くや。淳トモリニ。原ワカの。あらんや。たま。向トモリニ。往ハタマツ。と。も。つ
り。も。か。と。が。よ。事ハタマツ。あ。と。う。も。と。と。取ハタマツ。

かのえ申の夜。やのととゆき。そくとくら。角をりて
ひときよふ。老莊列。この義を以てもよむ。や
らのくじはくとくの取るをとくらん。がのほうち乃法。
あくまうあきとよゆるあり。をとひくのくわくは。石
あめくよつけをあくとだとをひくかへゆかつる。又
周云れるや。佛のや。神ゑや。てととだあるをと
く。やあくと方とよゆくんや。皆ととまくやから。かくと
あきと。神ととくと。文ととあきとやちひす。おやゆき
神のくちとひづらう。あん。おれとほらととあくと。神
てくうあくよと。なへよつらへられ。神とへりきりを。

あきよの字とひきぬき。神のや。のくちとや。あくと
の文とれ。あくとく。神とくのく。おれとくとくと。あくと
てく。のくちとくとくと。その字とれ。あくとく。神と
あくとくとくと。神とくとくと。あくとくとくと。やゆくとく
り。ひきぬき。字とくとくと。あくとくとくと。神と
神のくちとくとくと。奇とく。おとく。おとく。おとく。
もとくとくと。おとくとくと。おとくとくと。おとくと
や。おとくとくと。おとくとくと。おとくとくと。おとくと
あくとくとくと。物のとくとくと。おとくとくと。おとくと
おとくとくと。おとくとくと。おとくとくと。おとくと

卷之三

卷之三

十一

卷之三

あくまでも白河院の臣下と見ゆる。のうもうやぢわの
こと多くてすまむ。いきこもつてうとうとすまわ
ともや。後向河院とのちれをあわーのまかづれとて
せよえり。ばのうれをぐくよそ。ややけのひづり。トづ
たのうへあはせ。とくく。きやめをあはせ。とくく。枝も。
あはせふくやとあはせ。地近よりのふくは城とある。永家の
くくとれとゆく。だるもとゆよぬとえし。格式へうされと
枝も。比改革のゆへ。正領司のまむら様よゆうと。そきとま
まふあらよがくとゆき。ものまひ。地のむくもくとま
ほくもくあとこわー。まほの事も。余院へ賢玉もやにく。

物へまのとくやく。あつまへはるのあつきとゆく。みまわ
せうき。あくはせき。こよび中をとひしりとく。
ひくゑあねせの中。もとひきとく。つらぬじ。ほひとくのと
くとうくぬとのあへ院のあ面まくゆき。地政方の傍とあ
はふ。お家安朝の二代ハ。兼食教とありく。上せとくあく。記録不
可とく。辞定のとくやうく。あつやの日次の沙汰推よあら。が
と極くあるもの小條の家あり。とくうのえうけあう多ひえ
し。二位改ると。あつ佛とくやまし。ちとゆつてよ経とくまん
ゆく。女性のちくとく。まきもゆくめやうよ私あく。故將軍左仕
やくとく。接とくじと。あやうとくとく。やくじうもの秋妙さよ。

かくて行くつやとじらよせんゆあく。せめくちもあくやとく
のゆくに敷^{カホ}ふと。たのあくとふく。ハ勝敵^{ウラヒ}とくゆく
ゑくへたくへ折^{ウラ}まつまく。脇^{ウラ}あくととくとくとくとく
き。三浦のあくまくさまのひくまくあよ。そへちくふ魚
姫のすよ。渠^{カレ}の大娘^{タマ}のらのとれゆう。そとへお家^{ヨリ}の。そくや
そをかりゆくと。小舟^{スモ}のとくとくとくとくとくとくとく
なあくとく。あくへはいすくめふく。ゆくとくとくとくとくとく
象^{カバ}とくは^{カバ}一やくとくの。あくうとくとくとくとくとくとく
かくろのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

つまう。譲りとうちあく。破れとひく。と。居方の事あへば。居眠もやう。おのたうく。クをきゆやを。二位歎へ情ふきよと。參らきゆ。タカは五箇と。多がよどりきを。尼山のいとや

是比丘貞ハ三浦駿河守幸村也。卷時ノ室。矢部禪尼。猶子。三浦義村カ子也。始貞幸ト名ツク。後幸村ト改ム。嫡子ヲ三村太郎貞村ト謂テ。貞ノ字ヲ忘レス。義村カ子ヲ尼御前ノカクムツシウ袁アレ。給フコト其故アリ

兼久ノ恩食立ノ折カラ。平九郎判官胤義ヲ深ク頼ミ仰

事蒙リシニ。兄ノ義村ヲカタラヒテレト。ナヒク心モナク。ソレ
関東ノ平氏揚名目タルコト。右大將殿由緒深キ御被官十
ルカ故ナリ。三浦一鶴元ヨリ。八幡殿ノ御惠淺カラス。揚名
一ノ黨大助ト名ノル。カタク忠義トイヒ御恩ト云。其御
流ヨリ外。主君ト思ヒ奉ル方有ヘカラストテ。義時此旨
ヲ告ル。兼久三年五月十九日酉ノ上刻ナリ。其日權太輔。
伊豆ヨリ復狩ノ猪ヲ送リ来リ。侍ノ見參人多キ中ヨ
リ。火急ヲ告テ。胤義カ内消息ヲ見セラレケル。義時涙ヲウカ
ヘ今ニテ角ト知サリツルコソ不思議ナレ。宣旨ノ上八東國揚名
蒙御被官ノ中ニモ。一味同心ノ者多カルヘシ。然ラハ義時ヲ

討テイラセヨトノ事ナルヘシ。トテモ人手ニカランショ
リハ。御邊ノキニカケタミフテ。君ノ見参ニ入候ヘト。カニワ
クロヒ給ヘハ。義村口惜クモヘタテラレ奉ルモノカナ。凡御命
ニカハルコト度々。中ニモ畠山ホロホサセ給フトキ王。義村身
ヲ捨六郎ヲ組フセ。建保ニハ一族共ノ恨ヲ捨テ御味方ニ参ル
忠義。係三代將軍ノ御形見ト思奉ル故ナリト。誓言立ラ
レケル。義時心トケ運ヲヒラカレテルヨリ。義時フカクシタシ
ニ。尼將軍ノ御イタハリモ。餘ニスクリテルトカヤ。幸村ヲ貞
村トナサセラレシヲ。世ニハ比丘貞トソ申ケル。

まく安立城ノ氣望のひと先。參時孝子ト一て。左御附

氏ニ嫁セキタラ。勾當殿にき。二位左近の内侍、ゆづれ
あり。勾當殿の内侍少將、女丹後ノ内侍ト申
藤九郎盛長妻トス。秋田城主助景盛ノ母也。名とへりとひそく宣
す。まことに。あまくよし。山前よりくつろぐ
とあやうりをも。又はやくらとちうのわらあまくよしと
きうちへあまくよし。せよゑりくらとものやへあ。やと
ねそそり。もくろの中をもととまく。うなづふあひまく
とよ。お將軍えぬ。うなづふ。あべくあもととあとゆくま
くと。むね筋をほぐ。ゆきまくほり。おゆかくようもと
くと。おまくよき。あくまくをうなづふ。うなづふをうなづ
く。今へひとと。後のひまよの。月日と送がつまど。づ。

不
聖

卷之三

卷之三

この世の事ある。ひそかにかゝる。故敵の
手のところ。物もすくものやと。あたかも多く形見され。へりが
らすか。心と。うそた筋へ。ゆきえさす。因と。械じきりん。
タリ。黒紺シバホウと。ゆきえさす。あ。もと。又竹アシ。多れ。尼ニ。が。たの
ゆきえさす。を。さ。と。ひ。ゆ。き。え。さ。と。お。う。當教トウカ。あ。も
よ。く。あ。え。ま。あ。よ。く。其教キカの。も。と。て。と。う。せ。ら。い。く。ん。や。人
の。上。も。く。よ。あ。ま。う。み。そ。き。と。そ。の。も。う。き。よ。る。ふ。あ
と。で。ま。う。ち。の。元。は。あ。く。く。あ。れ。へ。重。の。う。へ。度。の。わ
ゆ。く。か。く。の。ほ。と。つ。あ。う。へ。と。う。そ。と。う。そ。や。實。せ。り。よ
う。う。そ。も。う。そ。ひ。か。く。ほ。う。そ。ひ。そ。う。。や。そ。あ。そ。ま。わ。が。

まかう見えん。まけへあをこせりゆと。うちじ
えれし。壁ユニをし。おもやちのひくみん。そへあ
せん。おへひまくよもう。よみのほく峰ヨビ
あくあへたかタカ。めがきを引くよせん。そ
せきへ。快チャウタきのやく。はくの緩アヤニキ。あり称カシの小
き。かきのまも。揚ヨウシ州カニの鏡。りりくわが被カハの紙
かの玉紙。うきさうのれ。れのむよしき。雲井の
ひゆと。元代のひよしき。あくえのふをあく。うじ
をあきよみかき。一條あ。ゆ歎カイゆき

の。今ゆくふとゆくおせーも。ううぬ御方のくひ
あきへ。あきをかそよあすからねがくゆくも。あすの
なれと。をきをきたのせまらきりかくとくを。ゆつてう
あらん。おたむれく。そくよくくやくをくへ
きうと。おせんと。おせんと。せのあすと。人のあすと。
ふ。ゆくと。おせんと。おせんと。せのあすと。人のあすと。
そ。放將軍。おきをひなひにめぐ。おきよかく後あり
き。あかは。漏とある。おきと。おきと。二位級や。おきりと。おきと
おき。おきと。おきと。おきと。おきと。おきと。おきと。おきと。おきと。
おうやまゆく。二位級や。おきと。おきと。おきと。おきと。おきと。

とはとく。本とく。相與のけ。巻枝は。是の内少輔。泰氏の
室。何。一。も。う。ね。下。ど。の。く。や。と。ん。せ。と。従。う。い。ゆ
あり。

相模守時頼ハ童名戒壽也。北條立郎兵衛トテ。武藏守
康時ニ六孫。時氏ニ男也。兄弥五郎經時。後ニ是モ武藏守
ト号ス。寛元四年四月病ニ因テ。是ノ時頼ニ執權職ヲユ
ツラル。三十ニシテ發心有ケレ共。時宗若カリケレハ將軍
家ノ沙汰ヲ免レタハス

少條左と將監。財入。まよ房。紫。せ。あ。よ。り。と。彼。と
さ。の。も。る。と。喝。こ。十。年。の。を。あ。う。敵。と。う。じ。う。深。の。姿。と

あり。計^{トスラ}義一遍^{ヨシイチブン}が^{ハシキ}かたうとあらへ。重^{シテ}ゆき。奇路^{キロ}
のあやうとよ虎^{トラヒゲ}顎^{ヒゲ}とあぐはのと津^ツ。ほのめくられ鷲^{ワニ}
口とのを。門^門口^{アガハ}はまく縁^{エハシ}はくと。すまやもも。那^ナ房^{マツコ}の利^{ヨウ}
要^{ヨウ}一^一とくめをと。砂^{スナフ}吹^{スナフ}とももひ破^{ハラハラ}る。月^{アマ}よ。海^{シマ}の古^{トド}
をよ發^ハと。あくとあくよ心^ハと。沈^{シタ}むかくと。うう^{フギ}と。豪^{ヒサ}
よ^{ヨシ}とくぬきのを。若^{シマカ}の艶^{シユジヤウ}よ。木^キと拂^ハく。紫^{シタ}あくの恩^ヲ
と拂^ハく。ひく太^ヒ興^{シカ}の歌^ハとあらへと。頃^ハ院^{タメ}の日記^ハくわくあ
り。あま^{アマ}かくゆ^{カク}の情^ハきをと。あま^{アマ}かくゆ^{カク}の^ハく。人^ハ圓^{ハシ}記^{ハシ}の
済^{シテ}山^{マツ}のをあらへ。わくらもみづ^{ハシ}。づい^{ハシ}と。ゆつ^{ハシ}と。あら^{ハシ}
はくもみづ^{ハシ}。づい^{ハシ}と。ゆつ^{ハシ}と。あら^{ハシ}

ちりとも不也。多かぬ所よりあよあつて、アリヤム即方あれハ
人をそぞれむ。中のお山をまし。松浦傳來をまへせよ。武吉の山に
松葉あえと松^ス葉もくづる。はよくまくありれ。まくまく松葉も。
中のお山をまく。あ松とのまへまくまとくをうり。今ので
東海とつぶやけの浦をねぐのまへとじくよもくがふ
物^{コト}。回^{ワタリ}柱^{ウラサキ}もうちあまよ。圓^{ヒコ}佛^{ヒツク}上^{スル}ともむく。縮^{ウカタマギ}禪^{シヅ}院^{イニ}緊^{ツシテ}禪^{ツキ}とを
紫^{ムラサキ}の竹林^{ムラサキシロ}の草^{スガ}むらさき^{バキ}。芽^{ハナ}育^{ハナツキ}の唐^{カホ}ま^{カホ}。唐^{カホ}
うすをあらひ。秀^{ヒデ}勦^{ヒラ}うけ立^{スル}。月^ス十^ト月^トあく^ハ七^セ月^ト八^ハ月^ト
九^ト月^ト十^ト月^ト。能^{ハシ}生^{ハシメ}の生^{ハシメ}と身^{ヒメ}と^{ヒメ}と。ばいゆ^モくわう^モくわう^モくわう^モ

鮮指の用としてある。楚敗夷板の事。かくは經の付と
告護は堂殿後閣ひとも魔軍の屯とあそり。かくおも
あきへ夷のふをかくはじくとよつては。かくは事方との
あり。海の告護もあらじてあくと。かくは梶理やもと
不^トれふある。家よいのいわる。じくふああじせかに一
人。行乞をあくとあり。放逸の傍ともゆう。かくはまうち
くと金とまくとゆく。かくはまくとゆく。かくはまくと
和尚ひくとがくひをたかくとまゆる。かくはまくと
高壁よ西廊へ石敷の和尚とへあくとあまひを。八十代。
後場河洗。寛永年よりを奉廟よくすり。高船よたうり。経

ゆく。宋ゆよこまう。徑山も毎準行障よゆくとを。す
かく。言をとこゆくとあらうよ。一房ねどと。まゆふ。下丁
の字あめえむと。云案とて。まゆくと。かくはむふとと
ア。清修院。寛永二年歸教。常陸のゆくより。を
けくよするの恩と報し。そむくとあくとあくふくと
て。じくととあくとと。本福の壁。犯前あ上山の作
す。かくは一派せきの御界。かく。三毛とと。いづくととくか
ゆく。ゆく。やあくとひく。やあく。あくとみくと。また浦
ととく。あくと。かく。御壽へ先よ。新あらの沙汰と本くは
アニモ。時代へんの。いふ。被けまくとて。かく和尚よまく。

ひきとせりゆよそ。さて夜食ひとく。せくらひ
き。まぬも處やそ縁舍より。無事といき先。あ福ちと
林。あ。数々和尚上堂。まつてゆよ。まく徑山の宿場
と。陽。とりとく。お福の堂よりかぶ。数々席かせわ
をあくと。げんま壁のすふ。あせり。徑山の七言
四の偈頌。かのすふ。あせり。又。あせり。徑山の
うちもいふ。とけりあくと。とて又。あくと。とて
そと。うお福の壁。一和尚。んと。ゆうよ。まくひ
き。僧徒もゆり。あくと。あくと。とくとも。と
とくとも。うてしめる。

本末の面目あくと。げの海老の眼。へくとあくと
又。移る和雰の浦。るく。宇佐八幡の浦。あくと。と。まく
移。ごくと。宇佐八幡と。毎か別ま林房と。毎か別あり
ゆの。うぬは業。ゆく。あくと。あくと。浦。あくと。ものやり。記
て。あ。眼。多。と。本。折。業。の。せ。ふ。く。あ。あ。う。そ
と。く。う。し。た。る。文。永。元。年。七。月。う。納。む。簾。舍。よ。う。て。山
の。う。ら。と。と。あ。り。雪。獨。も。う。り。残。夏。は。晴。と。と。と。の。を。あ。う。と
あ。い。幕。ま。う。り。渠。ハ。源。九。佛。義。經。の。後。要。と。が。一。常。法。房。傳
う。う。生。の。ひ。く。乞。那。か。く。を。よ。ゆ。き。を。じ。ゆ。く。そ。み。た。
殊。の。か。と。ゆ。ふ。よ。あ。く。私。と。今。ハ。私。う。し。か。く。ち。そ。せ。く。り

あまく。うるさい。ひやかす。じ年ねを落葉の
り女ト向。おめち教ます。て。宗^{シニワウ}も御^カよ嫁^カ。ひ
し。前^{シテ}とやみ持^カ。わきのうか。あり。又^カの事
九州^{カハ}よに多く。日の幸^{カハ}もん^{カハ}も。ほあうけの^{カハ}あ
きうし。日蓮は仰^{カハ}と。財入^{カハ}封面^{カハ}あり。わざ^{カハ}年
月。あくまの^{カハ}ふあくゆ^{カハ}。一も。ち物^{カハ}あり。経^{カハ}。お
のせよ。ああは思^{カハ}ふとあく。を^{カハ}華^{カハ}
の語^{カハ}と。もあきの教^{カハ}多^{カハ}からや^{カハ}そ縁^{カハ}金^{カハ}のあく。お大將家^{カハ}
もあす。あひぬまある。あ^{カハ}の^{カハ}の^{カハ}あと。あ
はく。あく。不^{カハ}能^{カハ}式^{カハ}。あり。まの店^{カハ}小町^{カハ}。とくらさ

り。わが身のまゝのやうに。ちうとばかりをね
へまし物やうなよもひへもまとつて。政治のうけ
あそび。うりあはすかうそめまへ。おふぶらむすまへ。うけ
あそびとまくあらじとふゆあへ。せのとまくしきうこけ
り。ゆのきへうる繕とあら。取やうとも。おれどもうる
きくあまと。あそびのうせうまか葉と。がく
うのとり。ひきとあるうと。もとと。鳥帽ホウシももつけう
と。と。ちく将軍のうね。僕スケあと。もう袍装ボウシヤウと。腰ハシよ。身
今ハタ故の漆キあまく。へ見えうあ。と。鉢持コンカキもとつとつと。
紫シラサギのあらん。うきもあううよ。生仕シナシの身ヒメ形カタとほくよ。

登一ノあま妙惠上人。已^シクはとくとくゆく。もとを
寝うある。づくぬああく。後^モ悔うすりやうり。小條丸
代のうら。泰時^{ヤスチキ}は積^{トキヨリ}あまさへゆふ。やちくの談^{アマリ}とむ
ききへそつへ。そ積^{トキ}くあよくちめあせり。ちくのん^ミ
とくとくめう。のまくはな室^{フキツナ}。夜^ナ、^{シヤウキヤ}洞^{ツバ}へて、^シ在十島^{サト}迎^{ハシ}御^ス。殊^モ
御^ハ舟^フ多^シ。多^シ船^フ。生^シ船^シを御^{ハシ}。義^ヒ久^クの^シみ^シをよ。宇^シの^シよ
をゆひ。又^シみ^シ不^シま^シとあり。初^シ夷^シ上^シ。終^シみ^シの^シ
をとまつ。日^モま^シ破^{ハシ}よあ^シ。夷^シ網^{ハシ}かくふる地^{ハシ}。夷^シ後^シ
に^シの^シ小^シあ^シも^シす^シを^シ。系^シ附^シも^シ森^シ因^シ。後^シよつま^シ
一^シ事^シと^シ。天^シ性^シ利^シね^シも^シ船^シ。被^シ多^シ殺^シめ^シあり。十七^シの^シ

モリトヤハラキシマモト。アツキヨヤクモトアコミル
シタムトアヘ。アヘヒヨウムハラク。ドウシテシタムトニシテ
今セアキヨウシテシタムト佛のハモドリセタマサ
キアカガ。アヅケのトモタマアハシキトアヒトヨヘ全
体の筋をモモトウシテシタマアハシキ。シナ
テ。アツモアキモアカシヒ。シイ やゆがうタマカモ
ヒトヨモタク。セトキアモクシヤモトハシノ。シヨウ
モトハシモクシヤモトヤモトセヨハシムカモト
シモトハシモクシヤモトヤモトセヨハシムカモト
シモトハシモクシヤモトヤモトセヨハシムカモト

卷之三

卷之三

二十一
王一春
家堂
卷

ゆきと雪と。かすと雪のふる葉とほんじゆる
ゆきりをとぐもとふくらむ。せとうめいゆとまくと。
偶の一平あもしめを、基くゆめとく。がとよきめと。
人を却とく。ゆきとおれむ。銀月あやうーとへやとと
も。わよくはあやうとせとを捨てぬと。ととりて
あやゆりあく。負とゆきと先秦とあくとあく。夜絆うけ
まくとへ後候。候院。寛え二年十月より。後治ま院。建長
四年の八月。あとのもとをアラト。アラト
の方ゆく。アラトあとのもとをアラト。アラト
めあらと。後候。候院。はなまあさくひく後。院宣わらう

ハ辯由菓丈とすらりとあはひりて。かくのう
よのめからひわらへ文豪の譲あり。辯由菓丈は堯生のふある。堀
のふはとぞ。堀の門徒とつまほくとよ人ゆづ。辯由
耳と洗のく。菓丈はキヒヤクシ。穂成うねの一毛とさ
き。ゆくよ。あとまへ後まくや。ちよ體毛とゆつて
くふりへきゆのもとし。まことつて。穂成うね
とゆゆむ。居の文とゆ。もの細や精ひにきるかくせり。
小田の時多遡る。がーの姿がのやう。けりあせつ。さう
こかくかみのいのらあんや。さくひ満よつて。あまの位と
こく職務と子孫よほよ。只文の譲のとある。さくかく。

くくくく。元やかゆふとまくべー。旅の宿とまわら。と
よへとあとを。せゑの寝外とある。古今の序と。宋人漫字と
写へとく。つゝ第ひく。日本へやうあり。書の詩牆の歌とも
とたう。竜田門の序まよ。紅葉と緑とくわんと詠。
附讀へう。やう。博方とやめく。うのま紙よ。うて。文度
くわくわく。博方あとやめく。うのま紙よ。うて。文度
よやくあらき。堀家へ堀蓮上人の死るやう。かくらり本門
あり。かくらり。堀の。清閑のたまへは見えなり。そへ

不聖

卷之三

三十七
卷之三

妙とうとく人能ちまきり。まめにあき見ゆふもみなり。
アガニダ
馬踏とまくわあらく。偶ノよき語ふれんべ。とせの家
涌ゆうつて。やまく静あわよ。ものふ志をうめくよ
アキトキ カン
せうり頑財へ事と。朋くて。折くあそぶ。え続く金沢あんま
アト
ゆくとくもくえをうひあらうと。玉手をもくと。又すむか
ナシユウ
りまわる。とせ兼好は附金はよくうり。まめよき一とれ。の
ナシユウ
兼好はうれをもうあくび。じゆくへくまくと。すめが者を
キヤウシボウ
内侍と傳。渠をまつらふ。がまうとくとくの。こそのうまると
キヤウシボウ
えふ。先をあまひあ。在まへ時と形よどりぬを。たぐ先
ソウシ
あねあり。引すへやともしとくとく。竹くらふや

あびけく海ひ風ひもく。まかへしてあつむ。よくあ
みのよがと。おとこの御とすゆとあよ。かくこくふ揚とし。
車脇カラをあきとせ。象のよととぞ。まろとそ
そくはまとよがわらをあてうぶ。と車よほじる
と移くや。りもあとけやかく。車うなぎへ。もうものも車も
忘くくと御とめ。あまに下小もむ足の筋ヨコと。頬者
ハ車とほんと。あねつらむし。」事も已あくよほねへ。
ソウソウ綱ツナゆく。まき傳タカヒクよとく。さくのくらび
を。諱よ辟ハシれを。桂く出のう是よほくきも。桂のくらび
ソウ持ハサく。素良スルあてをかくひかわく。あつむあれ

くそく。まくまく。變耳ヒキ。耳ヒキく。やほのゆく。いへいる
あくわー。ひとのくじきへ。ちくゆよ。鷺ヒギの書あー。のや
のくそく。めふ。一日ふくべかでとくわく。しーう。里と
く。往西と。うはよあくねのく。あと本のをとととな
せ。称スネキ。あとの役スケ。も。そとくわづき物スケ。引ハ
うきせの是弱車アレヌカ。そゆー。急と。さくじあくのひとく
く。人をもあんとある。いをへ。苦庵クツヤ。うりやそらへた。変よ
て。ゆよぬあく。あくがのあがう。やもつうひあと頬者アタヤ。
きくひとく。だのくとく。苦庵クツヤ。苦庵クツヤの脚シテをひく。そ
あん。あん。小山城シヅのあとあしめとて。びじへ浦シマとくとく

かうそ。まもゆきちやとつとへふきむ木よ
まくらをとく。のうねうれす。そひせのうち
みくらうあくえん。まきのわうく。がよつて
まくらを書路あく。もくまのぬのうめく。ひく
まくらとゆあく。はくともうく。ゆく
まくら。まくらをゆあく。ゆく。ゆく
まくら。今まくらはもうく。ゆく。ゆく
まくら。まくらをゆあく。ゆく。ゆく
まくら。まくらをゆあく。ゆく。ゆく
まくら。まくらをゆあく。ゆく。ゆく

らあくまつととかくとあそと。轡あそとやくとひ
まか。轡ウロシスとまの日ゆのまく。まかを遠すをやめうゆふ
らと。又傷ミツタとまかとへ。まかハまの轡路シホダとまかと
をあと一て。がでゆくと。まうアモまくあらとま。
を活せのみよとも業ワヤ。ばほは後アフかうん。がまくまくめのよか
く。因ヒトシまくまくと。のまくまくからなん。かしひても
まくまくれまくまく。がまくまくと。まくまくまく
えまの様モトツジと。ねづ。無事ムユウのあと。呑イ。生イ。命イ。不イ。死イ。の轡アシありまく。
玉極スウ玄ヨク門と押枝ヨクダキとを向アシテ。仙人アマニンと。まの室アマニンと。
よも。まく令アカタと。あまと。みかみと。みかみと。

又とどかうの群ふをじと。もううみあひの臺よひそ。
岩穴の巣あももくじりやまひぐみそみや
わんよあをあれふをせよんすもああそへりくにあく
え仙人さのまことく。体廣の澤カンシヨのカス。あもしりを
そつ。あまかよ生ガイ伍中將ヒサギ。せきゆくまほりてせきよ
あくと。ゆうあくまほく。やくちくとじふゆくとて。しき
ごくあう術ジエツをあく。あくじくもアタモヤヒテ。まこと
あまとくまよのがり。二種ミホの巣あよ羽衣ヒコと爲せし。ひやくあ
あまよ野イカリやうく。一夕んもうらでそくようあく。

とくとくとくしつ。西風と御ゆく。弱くて花と強よあつて。
そぞはつて。術とあぐなをせむね人のせよあつきて。
草や木やよああく。とく飛ひようもあく。ぐりにとくひ
じとねふやく。文も書はざる。ひのの首ゆみのせ。車の教
つより遠様。ちくとしやつま。とく度けねう。経よ頬よ
うく。みーうくもくのうくもく。むくくくしむれす
くく。ほとふとふとやほん。とく今のもつひわう。経とく
とく。一句よほねく。程うり。とくゆきうかとやり。かと
壁へあとて。みくのやうよやく。とくよあくとよあく
とのやうよやく。とくよあく。惟うやまおひゆとくとくへ。情(一)

とくとく。有と處とく。死と死とく。生と脊とく。ひり
あととあとく。うふふと志留とく。まうあう流のれと
そし。流のくくく年年のから。適無る謂よ遺と同。やとひと
うくとくとく。ひと安と。ひとねんと。二きみとくとく
とくとくへあとと。とくとくとくとくとく。志留回ととくと。志
うみのあとく。流の急狂とよ瞻ばとと同。うへと
とくとく。帝とよ瞻く。まきよゆくとく。べくとくとく。志留
とくとく。帝とよ瞻く。まきよゆくとく。やとすくとく。志留
とくとく。帝とよ瞻く。めくとくとく。志留のいく。今と家と
あむら。渠とくとくとくとくとく。とく熱をのうとくとくとく

いづくらの毎易傳へまよりは屬へばり。家へもく縫よらう。
らと。もむへいととつへもととせんへいとるのやへと。し
のひをあとある。まゆくまゆくのうちあせる。あそつら
ひくら中よおねうはとくら。ぶのうちとそくしへ
きあり。まのふくまくのへ情あり。まよつまよつま
そとからとひ。かよはれたりあり。うちあらよへうじら。し
をとくふとくはとあう。ひとやあすと。今まくつひは
ふとくめ。やわくかくあらんへたくとくとくとくとくとく
ひとくとくとく。情よへせとりうちら。此式アラ玉宣モ。
やとくとくあらあらあらセキガ言の事多くぬよ。

教書スにとあるの。うなまくてもあきが。かくくもあく
き。くわやうにとある。あくねの佛をかくとやく。少
と教會トとくとく。魯の傳サカイ孔子生を。せよあくこくじれ
あくこくも尚ナラやゆくとくやくう。さくうやくゆく
肉あくとあくほん。あくへくうのやく。あくけ
のうくあく

寶曆壬午歲秋九月

平山書坊

瀨尾源兵衛

叢行

そこのごほす。あと瑞神の萬古花
をもひ一木後す。野千玉の山の元
乃也源。この峯の山跡りきよ。漢傳
の事としはまて。人のせふみりこぬ
きす。園のわらはぬ。檜松のじよがく
きく。伏せの蘋食のうやくぬえく。
林の氣れ書とく。下る水茎ひ葉

居されんもあらず。このれはうの氣
の事。ゆきよもばくらえとほの
日は聞きよ。どや樟^{カシ}も満てせむ。ち
らさんすばりを歎^{カタマリ}め。ゆよ
昌ひらき。みづの草木が深らき
い衣袖^{イフツミ}あり。手^{ハタ}もまわぬ。
りすむ。若^{ヒト}の御^{ミコト}神^{ミコト}也

寒くせ盛^{アツ}うかんす。湯^{ヨウ}取^リ、
宝^ハんじ。じと、ねと。性^{セイ}者の^{セイ}に
を行^ハる。しげの^{シゲノ}じとの^{ジトノ}おもしまれば。
巻^スのれよ。すと。すと。湯^{ヨウ}流^リ、
氏^ヒのあまかぬ。萬^{ヒトツリ}、うきと。湯^{ヨウ}流^リ
えく。あれん。ほんの人のあまき
アヤカ。あまき。平^{ヒタチ}ま静^{シタチ}城。

竹林子
東坡居士
東坡居士
東坡居士
但可陽明
中華書局

海下隱士

閩故



